

おかざきSBCB創出コンソーシアム／第1回議論のポイント

▼運営委員会

●SBCB支援の課題

- － 産業施策として取り組む必要がある
- － 起業側、支援側もSBCBという理由から現状の支援策が双方とも当てはまらないと思っている

▼幹事会

●全国的にみた課題

- － SBCBの認知度が低い
- － 産業支援の一環としてとらえることが必要
 - 切り離されて考える事により、育たない環境が生まれている
- － 支援する専門家の不足
- － 事業性、ミッション性をリンクさせて事業化をサポートしていく必要性がある

●岡崎市における現状の把握

- － 岡崎市NPOは60団体
 - 20%有給、1,000万円規模／そのほとんどが福祉系／その他は事業型NPOにはなっていない
 - ローリスクローリターンの方が多い
 - 今後のSBCBに発展する可能性のある事業も多い
 - マネージメントが苦手な人が多い／主婦、若者
 - 資金調達ができない→雇用ができない、事業化できない
 - リーダー一個人に大きく頼っていることが多い
 - 他と連携できないNPO、支持されない組織も多い。逆に連携できたり、支持されると事業化していく
- － それぞれの取り組み(対企業、高校生、商店街(空家対策)、農家など) ※別途資料
- － 事業化していくために／SBCBを育てる中間支援組織の必要性

議論を踏まえた支援策における課題

- SBCB支援、振興策を作成するにあたって
 - － 産業施策の一環として取り組む必要がある
 - 産業支援の一環、起業支援の一環として、SBCBに連携をして取り組む
 - 各機関の専門性を持ち寄って連携をしたサポート体制の確立
 - － SBCBの認知度の向上
 - － 支援する専門家の不足
 - 事業性、ミッション性をリンクさせて事業化をサポートしていく人材の育成
- 岡崎市におけるSBCB人材の育成ポイント
 - － マネージメントが苦手な人が多い／主婦、若者
 - － 資金調達ができない→雇用ができない、事業化できない
 - － スタッフの人材育成
 - リーダー個人に大きく頼っていることが多い
 - － 他と連携できないNPO、支持されない組織も多い